

科目名	文化間コミュニケーション論A
科目名(英訳)	Cultural Communication A
科目ナンバー	HF232E07
詳細情報	授業外学修時間: 週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	塩澤 正
単位数	2
開講学年	1年
開講セメスター	春期毎週
対象学科 選択・必修	必修: 選択: HF
他学科受講	
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【春学期】 塩澤 正: 月1-2
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	英米科1年生の春学期科目である。「異文化接触」は専門や職業の違いに関わらず、誰にでも起こりうることを考えると、学部、学科の領域を越えてできるだけ多くの学生に履修してもらいたい。英米科の1年生は2年次の留学を考えると、全員履修することが望ましい。特に外国語やコミュニケーションに関する予備知識は必要としない。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①: ○ ③: ○ ④: ○
身につく基礎力 / 身につく汎用力	／ 思考力 多様性 協調性・協働性(公益心)

授業の主旨 (概要)	文化の多様性及び文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。文化間コミュニケーションに関する基礎「知識」を増やし、文化相対主義にもとづく、寛容的・非差別的な「態度」を身に付け、積極的に異文化を持つ人間と「行動」することができるための、基礎能力が身につける。英米科の学生の受講を前提としていたため、英語の文化圏の歴史、社会、文化との比較や英語学習との関連で学習する。																		
具体的 達成目標	この授業が終わるまでには、学習者は文化の多様性及び文化コミュニケーションの現状と課題について自分の言葉で表現でき、文化相対主義に基づく異文化に対する非差別的な態度と行動力が身につく。 ディプロマポリシーとの関係で以下のような汎用力が身につく 1) 専門的知識・技術 2) 国際的な視野 3) 多様性を尊重する態度 4) 協調性・協働性																		
	<table> <tr> <td>1</td><td>【内容】 文化間コミュニケーションのすすめ</td></tr> <tr> <td></td><td>【授業外学習】 自分の周囲にある文化や文化的体験をまとめる</td></tr> <tr> <td>2</td><td>【内容】 文化とは、コミュニケーションとは</td></tr> <tr> <td></td><td>【授業外学習】 文化について自分の言葉でまとめる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>【内容】 コミュニケーションの種類・レベル</td></tr> <tr> <td></td><td>【授業外学習】 『私たちの異文化体験』第1章のリーディングアサインメント</td></tr> <tr> <td>4</td><td>【内容】 言語コミュニケーション</td></tr> <tr> <td></td><td>【授業外学習】 自分の異文化体験の執筆</td></tr> <tr> <td></td><td>【内容】 非言語コミュニケーション</td></tr> </table>	1	【内容】 文化間コミュニケーションのすすめ		【授業外学習】 自分の周囲にある文化や文化的体験をまとめる	2	【内容】 文化とは、コミュニケーションとは		【授業外学習】 文化について自分の言葉でまとめる	3	【内容】 コミュニケーションの種類・レベル		【授業外学習】 『私たちの異文化体験』第1章のリーディングアサインメント	4	【内容】 言語コミュニケーション		【授業外学習】 自分の異文化体験の執筆		【内容】 非言語コミュニケーション
1	【内容】 文化間コミュニケーションのすすめ																		
	【授業外学習】 自分の周囲にある文化や文化的体験をまとめる																		
2	【内容】 文化とは、コミュニケーションとは																		
	【授業外学習】 文化について自分の言葉でまとめる																		
3	【内容】 コミュニケーションの種類・レベル																		
	【授業外学習】 『私たちの異文化体験』第1章のリーディングアサインメント																		
4	【内容】 言語コミュニケーション																		
	【授業外学習】 自分の異文化体験の執筆																		
	【内容】 非言語コミュニケーション																		

④ 授業計画	5	【授業外学習】	自分の異文化体験の執筆の継続				
	6	【内容】	コミュニケーションスタイル				
		【授業外学習】	『私たちの異文化体験』第2章のリーディングアサインメント				
	7	【内容】	ステレオタイプ				
		【授業外学習】	自分の周囲にあるステレオタイプについてまとめる				
	8	【内容】	価値観・価値前提				
		【授業外学習】	日本人の持つ典型的な価値観についてまとめる				
	9	【内容】	異文化摩擦				
		【授業外学習】	文化摩擦の事例をまとめる				
	10	【内容】	異文化間コミュニケーション能力				
		【授業外学習】	『私達の異文化体験』にもとづいて、感想と自分の体験談を書く				
	11	【内容】	カルチャーストレス				
		【授業外学習】	『私たちの異文化体験』にもとづいて、感想と自分の体験談を仕上げる				
	12	【内容】	カルチャーショック・ストレス				
		【授業外学習】	カルチャーストレスについて自分の体験談をまとめる。English Table参加				
	13	【内容】	異文化適応入門:異文化適応能力とは				
		【授業外学習】	異文化適応能力について自分の言葉でまとめる。English Table参加				
14	【内容】	異文化適応訓練:教材と疑似体験					
	【授業外学習】	オリジナル異文化適応訓練方法を作成する。English Table参加					
15	【内容】	ここまでのまとめ					
	【授業外学習】	試験勉強					
16	【内容】	試験					
	【授業外学習】						
④ 授業方法	学生の参加型授業を心がける。よって積極的に授業で発言を求める。指名されたときに「わかりません」「もう一度言ってください」は認めない。講義以外に、簡単な事例研究、異文化適応訓練、ビデオ鑑賞などを予定している。ノートを取らない、居眠り、私語、携帯の使用、緊急以外での途中退席は問題外であり、授業の邪魔になる場合は、退席を求める。課題はコメントをつけて、後日返却すると同時に、授業中にも随時フィードバックする。						
④ 成績の評価方法	授業への貢献度(±20%)、課題(20%)、定期試験の成績(60%)などを加味して総合的に評価する。授業中に私語などで何度も注意された者やノートを取らない者は、授業への貢献度はマイナス評価になる。						
④ 成績の評価基準	授業は全て出席することが大前提である。課題が一つでも提出されていない場合には単位は出さない。課題は、ユニークさ、考え方の深さ、まとめ方が重要である。他人のものを一部でもコピーしたものは、単位を出さない。ノートを取らない、居眠り、私語、携帯の使用、緊急以外での途中退席は、大いに成績に反映する。理由を問わず3回を超えて欠席したものはE評価となる。						
④ 教科書	No		書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN
	1.	『私たちの異文化体験』		塩澤正	大修館書店	1700	4469243825
	2.	『私たちの異文化体験2024』		塩澤他	中部大学	0	
④ 参考文献							
④ 備考							

 関連 ホーム ページ	
 メール アドレス	塩澤 正 shioz@fsc.chubu.ac.jp
 オフィス アワー	